

# 平成 29 年度 自己点検・自己評価公表シート

エクレスすみれ保育園

## 1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる」ことを教育・保育方針とする。

そのために次の6項目を保育目標とする。

①楽しい教育

②義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

③やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。

④「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の“4つのつばさ”を保護者と共に育てる。

⑤個を大切にしながら、自立の発達を促す教育と保育を進める。

⑥遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む。

## 2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

## 3. 学年別目標・計画

0歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。

#### 4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<b>1. 保育目標の理解と周知</b> 保育理念、保育方針、保育目標について、保育士間の共通理解ができているか	学園の理念、園の教育・保育理念、目標については、日ごろから周知することができており、保育士については共通理解が出来ているが、非常勤職員については、共通理解の機会を持てる取り組みが必要。
<b>2. 保育内容</b> 保育所保育指針の理解、指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができているか	指導計画は、保育指針を踏まえ、年齢に応じた園児の理解と発達状況に対応して作成ができている。日々の保育の記録をとり、園児のサポート状況等教員間で情報共有するとともに、改善への取り組みもできている。子どもへの保育で、戸外への活動が十分に行えている。その他の活動もバランスよく行えるよう計画をたてていく。
<b>3. 保育環境</b> 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができているか	教材・教具を適切に活用することができている。園児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる用具・材料を適切に準備し配置することができている。保育士の熟練度によって、準備にバラつきが見られるので、体制を検討し次年度に活かしていきたい。
<b>4. 行事</b> ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA 体制をとっているか	保護者向けアンケートの実施により、保護者の要望や意見を取り入れたうえで、PDCAを回しながら実施している。0～2歳児という中での行事について、今後もPDCAサイクルを回していく。
<b>5. 食育</b> 保育の一部となるような活動を行っているか	無理のない形で、食育体験を年齢ごとに行うことができた。食への取り組みを、個人がもっと意識するともっと良い形で行っていた。
<b>6. 職員の役割・資質向上</b> 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の職員との連携はできているか	専門的な知識・良識等については、園内研修を行い、同一の知識向上につながった。園児との共感、満足感や心の安定の提供、思いやりの気持ちなどの育みは、適切な言葉・行動とも、積極的な働きかけができている。また、一人ひとりを大切に受け止め、個々の特性に合わせた関わりもできている。
<b>7. 特別支援教育</b> 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができているか	当該園児についての情報の共有については、共通理解のもと支援体制を整えることができている。医療・福祉との連携は、個々での連絡はできていたので、園全体への周知をもっと強化していきたい。職員の知識向上という点においては、学園内外での研修参加の機会も設けているが、自己研鑽という点では、不足と感じている教職員もいる現状であることから、具体的な事例研究等の機会を設けたい。
<b>8. 保健・安全指導</b> 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができているか	避難訓練は計画に基づいて実施している。 園舎・園庭の施設・設備の安全点検は、計画性を持って実施している。健康・安全な生活に必要な習慣等の取り組みについては、園内掲示物やメール発信等を活用して実施している。アレルギーへの理解は職員会議等での共有だったので、今後は研修という取り組みを行っていききたい

評価項目	取り組み状況
<b>9. 保護者との連携・情報</b> 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り扱っている。 保護者からの要望や意見には真摯対応をしている。園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして情報を職員間の共有を図っている。 保護者への園の情報は年間行事予定表・園だより・メール・ブログ等で発信しているほか、連絡帳や降園時に直接伝えている。また、保護者は保育参加をとおして、園の保育の理解促進ができています。
<b>10. 子育て支援</b> 子育て支援の取り組み、子育ての相談としての機関の実施ができていますか	地域や保護者の実情や要望を取り入れ、年間の計画を立て、定期的に子育て支援を実施することができています。 連絡帳や降園時に、園児の様子を伝えることで、相談しやすい環境を作ることができた
<b>11. 組織としての運営管理</b> 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができていますか 経験に応じた保育士の連携が取れているか	組織としての役割分担が明確になっており、職員それぞれが全体の中での自分の役割を自覚して職務にあたる事ができています。職員間の情報共有及び意見交換等については、朝礼、情報ネットワーク、職員会議で行っている。次年度の積極的な取り組みとしては、経験に応じた役割を意識し、連携の強化が必要。
<b>12. 特徴的な教育</b> 系列園との連携はできているか 部門を超えての関わりを持っているか	積極的に系列園との関わりをもち、園庭への戸外活動も、連携を密にとり行うことができた。 職員が出張授業することや、園に受け入れをしたりと、積極的な関わりをもつことができた

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 保育目標の理解と周知	非常勤職員に向けて、共通理解の機会を持つ取り組みの実施
2. 保育内容	戸外以外の活動もバランスよく行っていく
3. 保育環境	園全体で材料準備の意識を高めていく
4. 食育	職員間、調理と連携をとり行っていく
5. 特別支援教育	具体的な事例研究等教職員の研修の実施
6. 保健・安全指導	アレルギー研修の実施
7. 組織としての運営管理	経験に応じた役割の明確化、仕組みづくり

平成 30 年 3 月 7 日